

第41期 報告書

自 平成20年2月1日 至 平成21年1月31日

Shape your future

ITエンジニアリングで 未来をつくる

経営理念

ITエキスパート集団として成長を続け、
顧客・社会に貢献します

CONTENTS

- 2 株主の皆様へ
- 3 社長インタビュー
- 5 第41期の主な活動
- 7 当期の概況
- 8 セグメント別の概況（連結）
- 9 連結財務諸表
連結貸借対照表／連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書／
連結株主資本等変動計算書
- 12 単体決算の概要
単体貸借対照表／単体損益計算書／株主資本等変動計算書
- 13 会社の概要
- 14 株式の状況

株主アンケートへのご協力をお願い

当社では、株主の皆様のお声をお聞かせいただくため、アンケートを実施しています。本書裏表紙にアンケートサイトへのアクセス方法が記載されております。ご協力よろしくお願いいたします。

この冊子においては、将来の見通しに関する記述が様々な表現でなされています。その見通しは社会の変化や不確実性に左右され、実際の結果が異なることも考えられます。これらの将来に関する記述に過度に依存なさらないようお願いいたします。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第41期(平成20年2月1日から平成21年1月31日まで)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当連結会計年度におきまして、当社グループはさらなる事業発展に向けて新たな3ヵ年中期経営計画を策定し、「躍進」をキーワードにビジネスの選択と集中を進め、経営基盤の強化を図ってまいりました。まず組織を、金融・自動車・製造の業種別体制に編成し、得意分野であるソフトウェア開発事業や情報システムサービス事業を推進するとともに、大手外資系企業からの大型アウトソーシング受注や、コニカミノルタグループとの合併会社設立など、業容の拡大にも積極的に努めてまいりました。

その一方、業績面におきましては、下期における急速な景気悪化の波を受け、連結売上高は543億4百万円、前期比10億6千3百万円(2.0%)の増となりましたものの、連結経常利益は26億6千5百万円、前期比9千3百万円(3.4%)の減、連結当期純利益は8億4千1百万円、前期比1千1百万円(1.3%)の減となりました。

期末配当金につきましては、安定的な配当の継続を考慮いたしまして、1株につき15円(中間配当を含めた年間配当は30円)とさせていただきます。

2009年度は、中期経営計画の2年目にあたり、当社グループが真のITプロフェッショナルとしての真価が問われる年となります。現下の厳しい情勢におきましても、お客様のご期待に応え続ける企業となるべく、社員一人ひとりが目標に向かって、何事にも果敢に挑戦してまいります。また、企業価値向上を目指して、顧客とのパートナーシップをさらに強め、優秀な人材の育成にも取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長

岩崎宏達



代表取締役社長

新野和章

ITエキスパートとしての自覚と誇りを持ち、精進して一步一步着実に足元を固め、時代に先んじた技術やサービスの提供を目指し、勇気を持って前進してまいります。

Q 情報サービス産業を取り巻く環境について、どのようにお考えですか。

A 昨年を振り返ってみますと、9月のリーマン・ショック以降、国際金融資本市場の混乱によって未曾有の世界同時不況に陥り、わが国も急激かつ大幅に情勢が悪化いたしました。特に、輸出産業を中心にさらに厳しさは増大し、情報サービス産業におきましても、顧客のIT予算削減やシステム開発の延期・凍結などの動きが出て、深刻な影響を受けております。

こうした不況下ではありますが、当社は創業以来、2度のオイルショック、円高不況、その後のバブル崩壊といった経済激変の荒波を幾度となく乗り越えてきた経験があります。そのたびに、当社グループ一丸となって顧客志向を追求した付加価値の創造によって乗り切ってまいりました。しかし、今回の不況は過去経験した規模ではなく、当社においても正念場だと考えております。この不況をどう乗り越えるか。まさに企業経営の“真価”が問われる時だと考えております。当社も厳しい時代を乗り越えるよう、お客様のニーズにすばやく応え事業を展開してまいります。

Q 当期を振り返って注力した取り組みについて教えてください。

A 当社は2008年度より、“売上と利益のバランスがとれた基盤づくり”を目指し、3ヵ年中期経営計画をスタートいたしました。2009年度は2年目にあたります。この計画達成に向けて初年度は、まず組織を全社横断的構造に改編し、変化の激しい市場、顧客の要望に応えられる事業体制および人材流動性を高めてまいりました。また、当社グループがこれまで培ってきた技術力、業務・業種ノウハウの集約を促進し、得意とする金融・製造業や自動車産業向けの受託システム開発とともに、当社独自の製品やサービスの拡充を進めてまいりました。第三者検証サービス「PROVEQ®」(プロベック)を全社標準的な開発検証、品質向上に掲げ、さらに製造業の生産部門の効率化を推進するサービスメニューを体系化した、ものづくりソリューション「VR+R®(Virtual Reality & Reality)」を新たに立ち上げました。

そのほか成長事業戦略としては、顧客のIT業務におけるアウトソーシング需要に対応するべく、データセンターサービス事業を拡張し、本年1月から神奈川第二データセンターがサービス開始となりました。

■事業領域



スト削減のニーズはさらに高まっています。当社は引き続きセキュリティソリューション、第三者検証サービス、データセンターサービス、IT運用管理サービスなど、IT本来の役割や効果を見据えた“攻めと守りのIT経営”に役立つソリューションを提供してまいります。

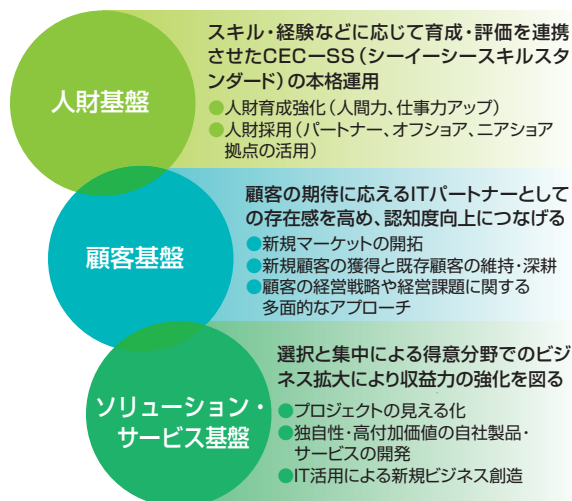
当社には、40年以上にわたって培ってきた実績とそれに基づくお客様からの信頼があります。中期経営計画に基づく、「人財基盤」「顧客基盤」「ソリューション・サービス基盤」の強化を推し進め、今こそ当社の強みを活かした付加価値の高い事業展開によってこの難局に挑んでいきたいと思えます。

Q 2009年度の事業展望についてお聞かせください。

A 「100年に一度の危機」と言われるこの景気変動は、いまだ底打ちの兆しが見えてきませんが、やがて訪れる景気回復に向けて事業基盤の強化を図ってまいります。そのために当社がなすべきことは、経営理念に掲げております「ITエキスパート集団として成長を続け、顧客・社会に貢献する」という精神を貫き、社員一人ひとりがより高いレベルで顧客ニーズを捉え、質の高いサービスを提供するという真のITプロフェッショナルとしての姿勢を示していきたいと考えております。

金融・経済危機が深刻化するにつれ、国内企業のIT投資は「選択と集中」に徹する動きが加速しており、生産性向上やコ

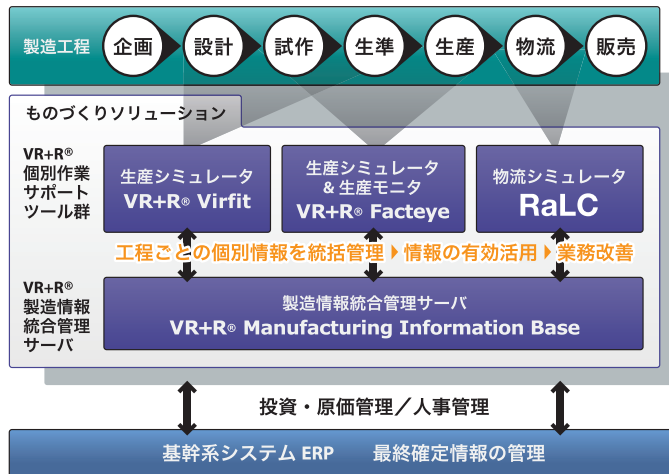
■中期経営計画で推進する3つの基盤強化



TOPICS

ものづくりソリューションの
新ブランド「VR+R®」発表

当社が提供するシミュレーションやモニタリング技術など、最新の情報技術を集約し、「ものづくりソリューションVR+R®(Virtual Reality & Reality)」を立ち上げました。製造業の製品開発・生産部門のお客様が直面する製品開発のリードタイム短縮、短納期生産、品質向上、コスト削減などの課題解決を支援する仕組みづくりを提供いたします。



TOPICS

第三者検証サービスPROVEQ®(プロベック)のビジネスサイトオープン

第三者検証サービスPROVEQ®サービスのホームページ「PROVEQ.jp」が2月にオープンしました。同サイトは、お客様から選ばれる検証サービスを目指し、検証サービスメニューの紹介に加え、PROVEQ®ブランドの紹介や、セミナー・イベントで発表した記事や資料を掲載。さらに新製品・サービス、事例、展示会イベントニュースなど幅広い情報を提供しています。



<http://www.proveq.jp/>

TOPICS

社内提案制度
「シーイーシーコンベンション」開催

日ごろ業務において実践している“改善”“改革”や“工夫していること”などを、社員が積極的に提案する「シーイーシーコンベンション」を開催。グループ全社にわたって提案活動の意識を向上していく「風土」と「機会」を作り出していくことが狙いで、一人ひとりが課題の本質を理解し、実現可能な提案活動ができる“行動型”エンジニア集団へのさらなる成長を目指していきます。



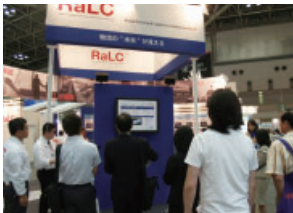
EVENT**2008.
6.25~27****「設計製造ソリューション展」に出展**

6月25日(水)～6月27日(金)の3日間「DMS 第19回設計・製造ソリューション展」が東京ビッグサイトで開催され、当社はSpaceClaim Japan社のブースにて合同出展いたしました。

ブースでの展示・デモでは、『SpaceClaim』と当社が持つ独自のプロダクトの組み合わせにより、製造業のお客様に“生産工程(特に生産準備期間)の短縮”が行えるソリューションを紹介いたしました。

**2008.
9.9~12****「国際物流総合展2008」に出展**

9月9日(火)～12日(金)の4日間、“未来を創造するロジスティクスイノベーション～人と環境にやさしい物流システム～”をコンセプトに「国際物流総合展2008」が東京ビッグサイトで開催されました。出展ブースでは、“物流の未来が見える”をテーマに、シーイーシー・エイアイサービスの3D物流シミュレーションRaLC(ラルク)のほか、当社から製造業向けのものづくりソリューションを展示・紹介し、積極的な質問等が寄せられ、関心の深さと手ごたえを感じた展示会となりました。

**2008.
10.8~9****金融国際情報技術展
「FIT2008」に出展**

10月8日(水)～9日(木)、金融機関向け展示会の「FIT2008(Financial Information Technology)金融国際情報技術展」が東京国際フォーラムで開催され、(株)ダイナトレックのブースにて初めて出展いたしました。会場では来場された金融業界のお客様に向けてプロモーションを行いました。

**2008.
10.15~17****「ITProExpo
2008」に出展**

10月15日(水)～17日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された日経BP社主催のITProExpo2008 Autumnに、出展しました。当社は「第3者検証サービスPROVEQ®」、「Dynamics CRMテンプレート」を出展し、連日ブースが大盛況でした。

その他の主な活動

2月 コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)及びコニカミノルタビジネスソリューションズ(株)とソリューションサービス事業における合弁会社を設立

6月 中堅企業に向けたERP事業に本格参入

8月 (株)シーイーシーソリューションズ、データ通信ソリューションメニューを拡充

国内唯一の赤外線データ通信規格認定証付与サービス、インターフェース互換性検証サービスを開始

10月 マイクロソフトパートナー・オブ・ザ・イヤー2008受賞

12月 エコネット規格適合性認証サービススタート

1月 国内最高峰の設備水準を備えた神奈川第二データセンターが本格稼働

2008年

2009年

事業の経過及び成果

当連結会計年度における情報サービス産業におきましては、昨年9月のリーマン・ショック以降、金融不安が顕在化し、顧客の情報化投資に対する意欲が急速に弱まるとともに、他社との受注競争はいつそう激化し、我々を取り巻く状況は一段と厳しくなりました。

当社グループは、当年度をスタートするにあたり「ITエキスパート集団として成長を続け、顧客・社会に貢献する」を経営理念に掲げた新3か年中期経営計画を策定いたしました。その初年度として、当社の強みを発揮するため、業種ごとに特化した組織体制に改編し、これまで蓄積した業務知識・ノウハウなどを集約させ、顧客への提案活動やサポートの迅速化を図りました。

具体的には、既存ビジネスの金融業・製造業を中心とした受託ソフトウェア開発においては、営業活動の強化に努め、効率的な受注活動を推し進めました。「PROVEQ®」(プロベック)として認知されている第三者検証サービスでは、付加価値の高い検証メニューの拡充を行い、顧客が生産する製品等の品質向上を支援してまいりました。また、データセンタービジネスにおいては、国内最高峰の設備水準を備えた神奈川第二データセンターが本格稼働し、高品質かつ信頼性の高いサービスを開始いたしました。

た。社内政策としましては、健全性の高い企業を目指すため、企業倫理および法令遵守の徹底に加え、実践的な内部統制システムの整備を進めてまいりました。

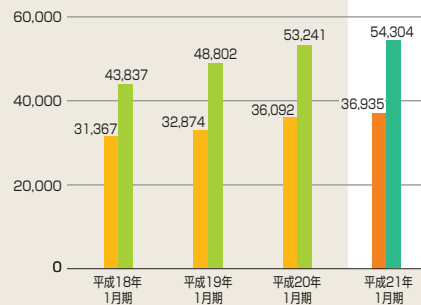
連結業績

	当 期	前期比
売 上 高	54,304百万円	1,063百万円(2.0%)増
経 常 利 益	2,665百万円	93百万円(3.4%)減
当 期 純 利 益	841百万円	11百万円(1.3%)減

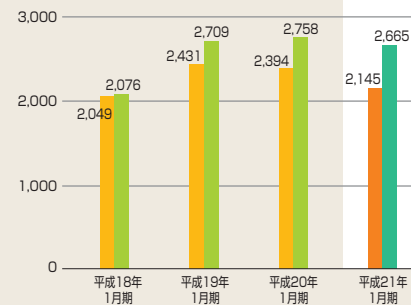
単体業績

	当 期	前期比
売 上 高	36,935百万円	842百万円(2.3%)増
経 常 利 益	2,145百万円	249百万円(10.4%)減
当 期 純 利 益	457百万円	426百万円(48.3%)減

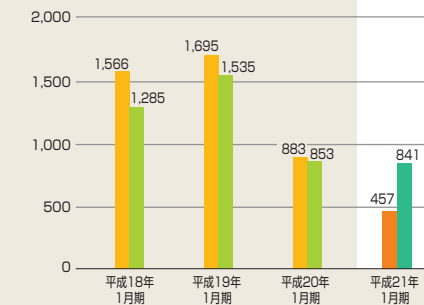
売上高 (百万円)



経常利益 (百万円)



当期純利益 (百万円)



ソフトウェア開発事業

296億1百万円

構成比 **54.5%**

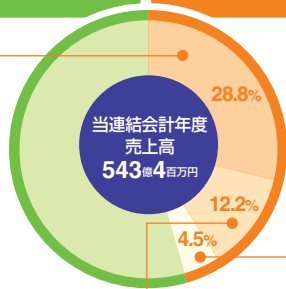
顧客における情報化投資の先送りなどがありました。積極的な提案活動を行った結果、売上高は296億1百万円、前期比5億6千1百万円(1.9%)の増となりました。

情報システムサービス事業

247億3百万円

構成比 **45.5%**

アウトソーシングサービスにおける大型案件の受注や検証サービスの業績が寄与し、売上高は247億3百万円、前期比5億1百万円(2.1%)の増となりました。



プロフェッショナルサービス

売上高は156億6千2百万円、前期比11億4千4百万円(7.9%)の増となりました。

アウトソーシングサービス

売上高は66億1千6百万円、前期比3億5千4百万円(5.1%)の減となりました。

パッケージ

売上高は24億2千4百万円、前期比2億8千7百万円(10.6%)の減となりました。

対処すべき課題

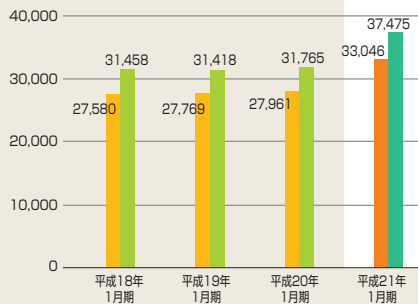
当業界におきましては、実体経済の悪化により、今後も企業の投資は大幅に抑制されることが見込まれますが、ITは企業活動にとって必要不可欠なインフラであり、即効性のある情報化投資に対して、顧客の需要は底堅く推移するものと思われます。

当社グループは昨年度に策定した中期経営計画の実現をあきらめることなく、安定的な収益構造の確立および顧客ニーズに迅速に対応できる企業を目指してまいります。そのためにも社員一人ひとりがITエキスパート集団としての自覚と誇りを持ち、勇氣をもってチャレンジしていく所存でございます。

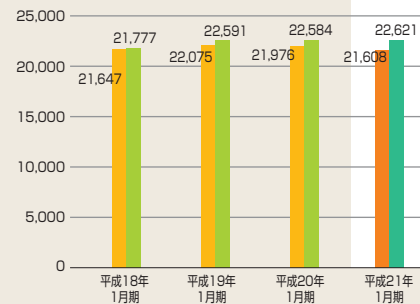
特に、昨年10月に立ち上げた、製造業の製品開発・生産部門向けにシミュレーションおよびモニタリング技法を駆使して業務の効率化を図る新ブランド「ものづくりソリューションVR+R® (Virtual Reality & Reality)」を始め、ITによる消費電力コストの節減といったグリーンITなど時代のニーズを捉えた新しい発想によるビジネスを推進いたします。

さらに、生産性および品質を向上させるため、作業の標準化を徹底するとともに、商談の段階から監視チェック体制を強化し、グループ一体となって不採算案件の撲滅に取り組んでまいります。

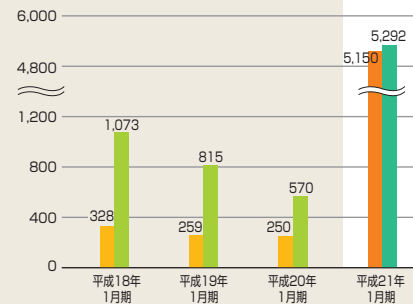
総資産 (百万円)



純資産 (百万円)



有利子負債の残高 (百万円)



連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	期	当連結会計年度 (平成21年1月31日現在)	前連結会計年度 (平成20年1月31日現在)
資産の部			
流動資産		19,104,217	17,283,969
現金及び預金		5,272,433	2,029,858
受取手形及び売掛金		9,682,802	10,396,824
たな卸資産		2,271,545	3,067,051
繰延税金資産		511,425	605,549
その他		1,408,887	1,270,588
貸倒引当金		△ 42,877	△ 85,902
固定資産		18,371,456	14,482,004
有形固定資産		11,726,511	8,242,718
1 建物及び構築物		8,478,890	4,678,183
土地		2,583,496	2,583,496
建設仮勘定		—	387,094
その他		664,124	593,944
無形固定資産		1,953,643	1,392,791
投資その他の資産		4,691,301	4,846,494
投資有価証券		891,415	1,562,642
繰延税金資産		1,911,193	1,611,558
その他		2,094,560	1,796,933
貸倒引当金		△ 205,868	△ 124,640
資産合計		37,475,673	31,765,973

(注)有形固定資産の減価償却累計額 5,377,199千円 5,115,274千円

(単位:千円)

科目	期	当連結会計年度 (平成21年1月31日現在)	前連結会計年度 (平成20年1月31日現在)
負債の部			
流動負債		9,608,225	6,624,865
買掛金		2,320,294	2,874,116
短期借入金		2,549,986	447,904
未払法人税等		414,336	608,982
賞与引当金		529,222	480,025
役員賞与引当金		55,120	53,400
その他		3,739,264	2,160,436
固定負債		5,245,985	2,556,470
長期借入金		2,742,895	122,880
退職給付引当金		1,927,235	1,876,215
役員退職慰労引当金		573,928	557,375
その他		1,926	—
負債合計		14,854,210	9,181,335
純資産の部			
株主資本		22,027,234	21,769,283
資本金		6,586,000	6,586,000
資本剰余金		6,415,030	6,415,030
利益剰余金		10,775,082	10,517,131
自己株式		△ 1,748,878	△ 1,748,878
評価・換算差額等		△ 115,448	136,252
その他有価証券評価差額金		△ 112,866	131,293
為替換算調整勘定		△ 2,582	4,958
少数株主持分		709,677	679,101
純資産合計		22,621,463	22,584,637
負債・純資産合計		37,475,673	31,765,973

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	期	当連結会計年度	前連結会計年度
		(平成20年2月1日から 平成21年1月31日まで)	(平成19年2月1日から 平成20年1月31日まで)
売上高		54,304,509	53,241,463
売上原価		43,704,268	42,899,876
売上総利益		10,600,241	10,341,587
販売費及び一般管理費		7,805,903	7,615,294
営業利益		2,794,337	2,726,292
営業外収益		169,184	202,114
営業外費用		297,702	169,585
経常利益		2,665,819	2,758,821
特別利益		36,138	83,920
特別損失		848,562	868,449
税金等調整前当期純利益		1,853,395	1,974,292
法人税、住民税及び事業税		996,099	1,181,841
法人税等調整額		△ 34,059	△137,497
少数株主利益		49,517	76,659
当期純利益		841,837	853,289

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	期	当連結会計年度	前連結会計年度
		(平成20年2月1日から 平成21年1月31日まで)	(平成19年2月1日から 平成20年1月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		4,901,739	784,015
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 5,780,171	△1,721,933
財務活動によるキャッシュ・フロー		4,123,406	△1,166,171
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 4,863	1,667
現金及び現金同等物の増減額		3,240,111	△2,102,421
現金及び現金同等物の期首残高		1,968,878	4,071,299
2 現金及び現金同等物の期末残高		5,208,989	1,968,878

POINT

1 建物及び構築物

神奈川第二データセンターの完成に伴い、37億8千8百万円を計上しております。なお、同データセンターは、国内最高水準の設備を完備しており、お客様へ高品質で信頼性の高いサービスを提供しています。

2 現金及び現金同等物の期末残高

当期末の残高は、52億8百万円となり、前期に比べ32億4千万円と大幅に増加しております。これは、急速に悪化する経営環境に対処するため手元資金を厚くしているためです。

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度（平成20年2月1日から平成21年1月31日まで） （単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成20年1月31日残高	6,586,000	6,415,030	10,517,131	△ 1,748,878	21,769,283
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 583,887		△ 583,887
当期純利益			841,837		841,837
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の変動額（純額）					—
当連結会計年度中の変動額合計	—	—	257,950	—	257,950
平成21年1月31日残高	6,586,000	6,415,030	10,775,082	△ 1,748,878	22,027,234

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年1月31日残高	131,293	4,958	136,252	679,101	22,584,637
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			—	—	△ 583,887
当期純利益			—	—	841,837
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の変動額（純額）	△ 244,160	△ 7,540	△ 251,700	30,575	△ 221,124
当連結会計年度中の変動額合計	△ 244,160	△ 7,540	△ 251,700	30,575	36,825
平成21年1月31日残高	△ 112,866	△ 2,582	△ 115,448	709,677	22,621,463

単体貸借対照表

(単位:千円)

科目	期	当期	前期
		(平成21年1月31日現在)	(平成20年1月31日現在)
資産の部			
流動資産		13,727,696	12,432,982
固定資産		19,318,474	15,528,094
有形固定資産		10,922,022	7,506,735
無形固定資産		1,285,054	621,851
投資その他の資産		7,111,397	7,399,506
資産合計		33,046,171	27,961,076
負債の部			
流動負債		7,220,056	4,453,786
固定負債		4,217,592	1,531,178
負債合計		11,437,648	5,984,964
純資産の部			
株主資本		21,721,927	21,848,805
資本金		6,586,000	6,586,000
資本剰余金		6,415,030	6,415,030
利益剰余金		10,469,775	10,596,653
自己株式		△ 1,748,878	△ 1,748,878
評価・換算差額等		△ 113,404	127,306
純資産合計		21,608,523	21,976,111
負債・純資産合計		33,046,171	27,961,076

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 4,991,062千円 4,745,953千円

単体損益計算書

(単位:千円)

科目	期	当期	前期
		(平成20年2月1日から平成21年1月31日まで)	(平成19年2月1日から平成20年1月31日まで)
売上高		36,935,411	36,092,916
売上原価		29,482,048	28,973,503
売上総利益		7,453,363	7,119,413
販売費及び一般管理費		5,270,564	4,951,956
営業利益		2,182,798	2,167,456
営業外収益		197,484	259,138
営業外費用		234,906	31,723
経常利益		2,145,377	2,394,871
特別利益		11,667	30,600
特別損失		1,040,784	853,601
税引前当期純利益		1,116,259	1,571,870
法人税、住民税及び事業税		592,955	836,984
法人税等調整額		66,293	△ 148,567
当期純利益		457,010	883,453

株主資本等変動計算書 当期 (平成20年2月1日から平成21年1月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成20年1月31日残高	6,586,000	6,415,030	10,596,653	△ 1,748,878	21,848,805	127,306	127,306	21,976,111
当事業年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 583,887		△ 583,887			△ 583,887
当期純利益			457,010		457,010			457,010
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)						△ 240,711	△ 240,711	△ 240,711
当事業年度中の変動額合計	—	—	△ 126,877	—	△ 126,877	△ 240,711	△ 240,711	△ 367,588
平成21年1月31日残高	6,586,000	6,415,030	10,469,775	△ 1,748,878	21,721,927	△ 113,404	△ 113,404	21,608,523

商号 株式会社 **シーイーシー**
 Computer Engineering & Consulting, Ltd.
 設立 昭和43年2月24日
 資本金 65億8千6百万円
 従業員数 2,893名(連結)



●主な事業所

東京(本社)
 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル

神奈川(座間) <さがみ野システムラボラトリ(本店)>
 〒228-8567 神奈川県座間市東原5-1-11

神奈川(川崎) <宮崎台システムラボラトリ>
 〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎2-9-16

大分 <大分システムラボラトリ>
 〒873-0008 大分県杵築市大字熊野字大平21-1

名古屋
 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-10-29 白川第八ビル

大阪
 〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル

福岡
 〒812-0025 福岡市博多区店屋町8-30 博多フコク生命ビル

○その他オフィス

仙台、新宿区、渋谷区、沼津、富山、金沢、豊田、京都、都城



神奈川(座間) <さがみ野システムラボラトリ(本店)>

●主なグループ会社

	社名	資本金(百万円)	出資比率(%)	事業内容
連結対象子会社	フォーサイトシステム 株式会社	250	83.2	ソフトウェア開発
	双日システムズ株式会社	111	70.0	ソフトウェア開発、システム保守・運用
	株式会社 シーイーシーソリューションズ	100	100.0	ソフトウェア開発、パッケージ販売・保守
	株式会社 シーイーシー・エイアイサービス	100	100.0	ソフトウェア開発
	西テレ情報サイエンス株式会社	90	75.0	ソフトウェア開発
	大分 シーイーシー 株式会社	30	100.0	ソフトウェア開発
	シーイーシー(上海)情報システム有限公司	175万米ドル	100.0	ソフトウェア開発
持分法適用会社	ココカミマルタ ビズコム株式会社	300	34.0	情報機器に関連したITソリューションサービス
	株式会社パイロット	45	30.0	WEBサイト、ECサイト構築
	上海宝希計算機技術有限公司	60万米ドル	30.0	ソフトウェア開発

役員及び執行役員 (平成21年4月17日現在)

役員

取締役会長 (代表取締役)	岩崎	宏達
取締役副会長	浜島	博臣
取締役社長 (代表取締役)	新野	和幸
常務取締役 (常務執行役員)	柏木	茂
取締役 (常務執行役員)	芳武	治
取締役 (執行役員)	橋村	清海
取締役 (執行役員)	田原	富士夫
取締役 (執行役員)	長田	一裕
常勤監査役	林	孝重
監査役	長濱	毅
監査役	小島	和人

執行役員

執行役員	木根	博治
執行役員	大林	辰男
執行役員	中野	広
執行役員	猪狩	正
執行役員	廣田	雅博

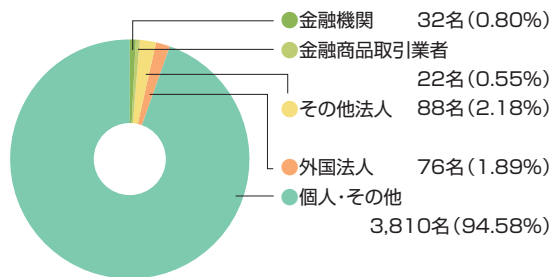
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式総数	18,800,000株
株主数	4,028名

大株主

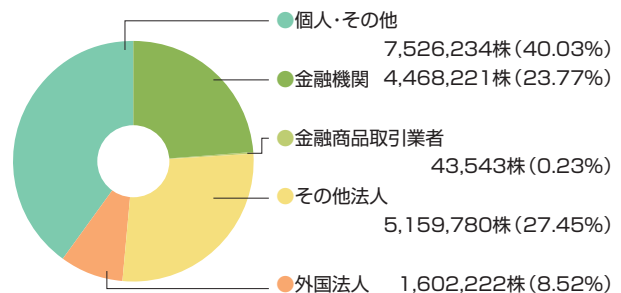
	株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
1	ミツイワ株式会社	2,223,600	12.76
2	富士通株式会社	1,680,000	9.64
3	日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	1,444,600	8.28
4	岩崎宏達	938,200	5.38
5	日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	650,300	3.73
6	日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口4G)	629,200	3.61
7	シーイーシー従業員持株会	560,700	3.21
8	日本フォーサイト電子株式会社	465,480	2.67
9	株式会社三菱東京UFJ銀行	288,000	1.65
10	日本生命保険相互会社	266,800	1.53

(注)上記のほか、当社所有の自己株式1,370,521株があります。

株主数比率



株式数比率



(注)当社所有の自己株式1,370,521株は、「個人・その他」に含まれております。

株主メモ

事業年度	2月1日～翌年1月31日
期末配当金受領 株主確定日	1月31日
中間配当金受領 株主確定日	7月31日
定時株主総会	毎年4月
株主名簿管理人 特別口座の口座 管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部(証券コード9692)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.cec-ltd.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル
TEL.03-5789-2441 (代表)

記載の会社名及び商品名等は、一般に各社の商標、または登録商標です。

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9692

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900(平日 10:00~17:30)「e-株主リサーチ事務局」MAIL: info@e-kabunushi.com

当社ウェブサイトでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っています。また、当社の事業活動や動向が紹介されています。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。

<http://www.cec-ltd.co.jp>

